

# 石川県立美術館だより

平成18年2月1日発行 第268号

## 茶道美術名品展

2月8日(水)~3月1日(水)会期中無休 午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)



古銅柑子口花入



古染付張甲牛香合 景德鎮窯

### 目次

茶道美術名品展 .....	2	講演会記録(日本美術にみる暮らしの喜び)...	5
彫刻 石川の昭和30年代 .....	3	平成18年度友の会会員募集 .....	6
近代工芸と茶道具 .....	3	企画展示室、2月の行事案内.....	7
今月のコレクション展示室 主な展示作品...4		所蔵品紹介、次回の展覧会.....	8
展覧会回顧(マイミュージアムをつくろう).....4		ミュージアムショップ通信 .....	8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

今月のコレクション展示室  
(前田育徳会展示室)

特集  
茶道美術名品展  
2月8日(水)~3月1日(水)

前田家では藩祖利家以来、代々の藩主は茶の湯に深く心を寄せています。利家は初めは千利休に、利休没後は織田有楽に、二代利長は利休と高山右近に茶の湯を学び、利長自身も利休七哲の一人に数えられることもあります。三代利常は小堀遠州と親しく交わり、茶の湯に関しても両者の茶の湯問答が往復書簡(その一部を今回展示)として残されており、多大の影響が確認されます。四代光高も父とともに遠州に茶の湯を学んでいます。また金森宗和の子七之助に始まる代々前田家が召し抱えたことから、加賀は宗和流発祥の地ともいわれています。さらに千家三代宗旦の子で裏千家流祖の仙叟宗室は、茶道茶具奉行として、利常や五代綱紀に仕えました。このように、茶の湯をはじめとした様々な芸道の盛んな地域として、その伝統は今日に続いています。

このような歴史を経て今日に伝わる名品のなかから、茶道具では、一休宗純の墨跡、さらには利常の幅広い交流をうかがわせる後陽成天皇や後水尾天皇の宸筆などをはじめ、「玳皮蓋天目(梅花天目)」、「茶壺銘春の日」、「古瀬戸茶入 銘孫六」、「雲龍釜」など約二十五点を展示します。

茶道の発展とともに名物裂も珍重されましたが、前田家では茶の湯に精通していた利常が、寛永十四年(一六三七)、当時海外貿易の唯一の窓口であり、舶来品の宝庫であった長崎へ家臣を遣わせて蒐集したものです。このコレクションは優れていると同時に種類が多く貴重であり、名物裂の宝庫といわれています。「花七宝入り石畳文様緞子(遠州緞子)」や「流水梅花文様緞子(織部緞子)」など茶の湯に関連する十一点を展示します。

同時開催の「茶道美術名品展」(第2展示室)や「近代工芸と茶道具」(第5展示室)とあわせてご鑑賞いただき、金沢の茶の湯を一考するひと時をお過ごし下さい。

第2展示室では、先月に引き続き「茶道美術名品展」を開催しています。

作品を一部入れ替えて、岸駒筆の「兎福寿草図」や小堀遠州筆「書状」、金森宗和作「竹一重切花入」などを後期のみ展示としました。

今回は「香合」を数多く展示しています。その中のいくつかをご紹介します。

**和蘭陀白雁香合 デルフト窯**

オランダ、俗にいう紅毛のやきもので、江戸時代のはじめにわが国に舶載されたものです。細い頸を長くのばした白雁の姿で、いかにも優美で愛らしい趣です。類品が少なく、藤田美術館蔵の白雁香合とならび、わが国の双璧とされている古来より名高い名品です。

**古染付張甲牛香合 景德鎮窯**

中央に一匹の牛を描いただけですが、素晴らしい意匠効果を出しています。染付の発色が美しく優品の一つに数えられます。わが国から中国への注文品で、型物香合番付では西方前頭九枚目に配されています。わけても、この香合のように右を向く牛は、上々といつて珍重されています。

**交趾金花鳥香合**

半球状に盛り上がる蓋に二羽の金花鳥を相対させ、総体に緑の交趾釉をかけています。金花鳥の香合は数が少なく、型物香合番付では東方前頭十一枚目に記されています。交趾は、現在のベトナム地方をさします。が、実際には中国南部の広東省から浙江省あたりで焼かれたものと思われる。

**色絵花笠香合 野々村仁清**

花笠の香合に見立てたもので、その印象的な形に青や緑、赤などの絵具と金彩を駆使して華麗な文様が描かれています。優雅で気品のある香合で、仁清らしさがあらわれています。幕末の加賀藩廻船御用商人、銭屋五兵衛が所持していたものです。

今月のコレクション展示室  
(第2展示室)

特集  
茶道美術名品展  
2月8日(水)~3月1日(水)



和蘭陀白雁香合 デルフト窯

# 今月のコレクション展示室

(第4展示室)

特集

## 彫刻 石川の昭和30年代

2月8日(水)~3月1日(水)



若竹 木村桂一

彫刻の館藏品の中で彫刻の石川の昭和三十年代を概観すると、ほとんどが日展系の作家です。畝村直久、矩幸成、木下繁、木村桂一、吉田三郎等が三十年代に活躍しました。

畝村は、金沢市に生まれ、昭和九年東京美術学校彫刻科を卒業して、二十一年に開設されたばかりの金沢美術工芸専門学校で指導しています。三十年代は畝村の晩期であり、東京学芸大学で教鞭をとっています。「立てひざの女」という作品をみると、顔の表情は素朴で朴訥なものです。人体表現は堅実でなにかモダンな雰囲気をもっています。

矩は、金沢市に生まれました。三十年代は金沢美術工芸大学の教授時代で、脂ののりきつた時期であり、かずかずの名作が生み出されています。個々の作品をみると女性の裸体表現が多いのですが、堅実で特に女性の顔の表現がユーモアにあふれ、親しみ深いものです。

木下は、両親が石川県出身で和歌山県の生まれです。東京美術学校を卒業し、帝展、日展などで活躍しています。「裸婦」は、どこかジャコメッティを暗示させる彫刻ですが、日本女性の特徴をつましく掴んだ具象彫刻を得意とした作者ならではの作品です。

木村は金沢市生まれで、東京美術学校を卒業し、帝展、日展などに出品しました。三十年代は東京教育大学で教鞭をとり、日展系の白日会で活躍しています。「若竹」に代表されるように非常に動きを伴った男性像を得意としました。

最後に吉田は明治二十二年金沢市に生まれて、四十五年東京美術学校彫刻科を卒業し、板谷波山に師事しました。第四回文展に初入選して以降帝展・新文展・日展に出品し、その間に審査員を二十二回つとめました。大正十二年白日会を結成、徹底した写実主義を基礎に、ロダンやムーニエのロマン主義的要素を取り入れて、独自の作風を確立しましたが、「北村西望像」には、その特徴がよくあらわれています。

先月に引き続き、第5展示室で近代工芸による茶道具の展示を行います。二月ということで、取り合わせで、梅にちなんだ道具をいくつかご覧いただきます。友禅の人間国宝・木村雨山による梅花図を掛け、蒔絵の人間国宝・寺井直次の、金胎蒔絵水指「梅」や、九代大樋長左衛門による、黒釉内梅花文茶盤などを合わせました。季節の移り変わりを楽しみながら、お茶を嗜んでいた、日本の伝統を感じていただきたいと思います。

金沢の茶道を語る上で、欠かすことの出来ないものの一つが大樋焼です。江戸時代から続く茶陶作りを継承しており、飴色や黒色のあたたかく美しい釉薬がかかった、滋味あふれる作品を特徴としています。第5展示室では、茶碗作りの名手としてつとに知られていた九代長左衛門、そして芸術院会員として、モダンな作品にも果敢に挑む十代長左衛門による、当館所蔵品を中心に、近代大樋焼の水指や茶碗等をまとめて展示しております。第2展示室に展示されている、初代や五代による、加賀藩の文化政策が最も盛んであった時代の、大樋の茶陶とも、ぜひ併せてご覧下さい。

また、金沢と縁が深かった陶芸家の一人に、石黒宗鷹があげられます。鉄釉陶器で人間国宝に指定された石黒は、富山県新湊市で医師の息子として生まれましたが、中国宋時代の曜変天目に魅せられて、独学で陶芸を学びました。東京や埼玉、金沢等で作陶を続けたのち、京都八瀬に窯を開いて、中国宋時代の天目をはじめとして、宋赤絵、磁州窯系の千点文など、研究・試作を重ねて、多義多様な作品を作りました。当館では、四十三点の石黒宗鷹作品を所蔵していますが、今回はこの中から、茶碗を八点展示します。個性的で親しみのある中にも、気品あふれる作風を堪能出来ることと思われれます。

# 今月のコレクション展示室

(第5展示室)

特集

## 近代工芸と茶道具

2月8日(水)~3月1日(水)

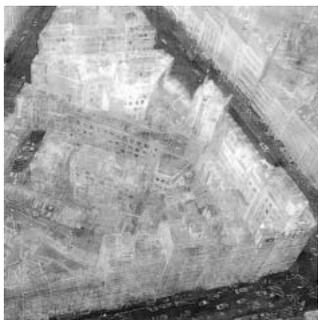


金胎蒔絵水指「梅」 寺井直次

# 今月のコレクション展示室 主な展示作品

2月8日(水)~3月1日(水)

● = 国宝      = 重要文化財  
= 石川県指定文化財



MONTPARNASSE 中町 力



黒釉内梅花文茶盃 九代大樋長左衛門

前田育徳会展示室  
特集 茶道美術名品展(後期)

一休宗純墨跡

玳皮蓋天目(梅花天目)

花七宝入り石畳文様緞子(遠州緞子)

● 第1展示室

色絵雄雉香炉

色絵雌雄香炉

● 第2展示室

色絵鶉草花図平鉢 古九谷

青手桜花散文平鉢 古九谷

特集 茶道美術名品展(後期)

兎福寿草図

小井戸茶碗 銘玉兔

和蘭陀白雁香合 テルフト窯

● 第3展示室(油彩画・水彩・素描)

油彩画

パラダイス

山間

水彩・素描

青い糸

或る風景

● 第4展示室(彫塑)

特集 彫刻 石川の昭和30年代

3ページをご覧ください。

● 第5展示室(工芸)

千点文筒茶碗

黒釉内梅花文茶盃

平文輪彩提盤

桑縁箆組風炉先

梅花図

● 第6展示室(日本画)

行雲流水

MONTPARNASSE

春を待つ

観覧料

個人

一般 350円

大学生 280円

高校生以下は無料

団体(20名以上)

一般 280円

大学生 220円

高校生以下は無料

岩田 崇

中町 力

曲子 明良

木村 雨山

氷見 晃堂

大場 松魚

九代大樋長左衛門

石黒宗磨

伊東 哲

白尾 勇次

清水 鍊徳

塗師 祥一郎

岸 駒

野々村 仁清

野々村 仁清

## 展覧会回顧

### マイ・ミュージアム「MY FAVORITE わたしたちがみんなに見せたい収蔵品展」を終えて

12月に中学生が当館の所蔵品で展覧会を企画するという、学校・美術館連携の展覧会企画「マイ・ミュージアム」が開催されました。今年度は県立金沢錦丘中学校の2年生120名が「MY FAVORITE わたしたちがみんなに見せたい収蔵品展」と題して企画に挑戦し、学校と美術館が授業を通して一つの展覧会をつくりあげました。

9月中旬からの金沢錦丘中学校の授業に参加したわけですが、学年全員が展覧会の企画に関わっていくために、県立美術館はどのようなところで、どのような所蔵品があるか、こちらから何らかを投げかける授業からのスタートでした。所蔵品の選定に入った頃から、どのようなテーマで自分たちの展覧会をつくっていくか、選んだ作品をボードでどのようにみせていくか、どのような作品解説をつけるか、各自で、また各グループに分かれて、活発に活動されていきました。

鑑賞授業の当日、いままで学校でホームページや机上での作業を行ってきて、120名全員がこの日はじめて本物の作品と対面しました。作業中の展示室に初めて足を踏み入れた時に起こった驚きの、展示室完成時に聞かれた生徒の皆さんの感動の声・表情はなんともいえない素晴らしいものでした。展覧会最終日には、美術部を中心にジ

ュニアガイドになり、展示説明を行われました。作品を選んだ感想から、実際作品を目の前にしての感動・見どころを堂々と述べる中学生の姿に、来館した鑑賞者から多くの拍手が送られていました。

これからも、たくさんの児童・生徒さんたちに作品鑑賞に訪れてもらい、生涯に渡って美術館に足を運び、作品鑑賞を楽しんでいくきっかけとなるような企画を考えていきたいと思っています。(西 ゆう子 学芸主任)



講演会記録

日本美術にみる暮らしの喜び

講師：石田佳也氏（サントリー美術館主席学芸員）



サントリー美術館が誕生したのは昭和36年（1961）でした。当初から日本の古美術を中心に活動していこうということで、展示ケースなども屏風や日本の工芸品に相応しい形で作られました。

当館は美術館を立上げた佐治敬三館長の下で、コレクションゼロから出発しました。それが今では、3,000件のコレクションをこの45年程の間で築き上げています。

コレクションゼロから始まったサントリー美術館でありましたが、開館2年目に国宝の「浮線綾螺鈿時絵手箱」という手箱がコレクションに加わることになりました。これは佐治敬三の自叙伝に拠りますと、清水の舞台から飛び降りる気持で入手したらしいですけども、その甲斐あってか、名立たる漆の名品が初期の美術館のコレクションの基礎を形作ることになりました。

その後、コレクションの肉付けとして、多彩な屏風の作品が加わりました。絵画のジャンルですと掛軸が大半を占めるのが通例であろうかと思いますが、当館ではコレクションの主なところが絵画にしていえば圧倒的に屏風が多いのです。サントリー美術館に屏風が多いのは、屏風は室内調度品として実際に使われていたという側面が理由の1つなのです。

サントリー美術館がコレクションゼロから始めてどういいう方針で作品を集め、また、どういいう美術館にしていこうかということを考えるに当たって、出発点、基本理念として「生活の中の美」を大切にしていこうということ掲げました。そこでこのような生活の中の調度品として活躍していた屏風は、うってつけの作品となったわけです。屏風は少なくとも江戸時代以前は空間を彩る重要なアイテムだったわけです。

屏風の中でも、生活の中の美・生活の諸要素を様々な形・情報として描きこんでいるのが洛中洛外図です。職人の姿であるとか、夏の風物詩として当時の暦でいえば6月7日に行われていた祇園祭の様子であるとか、或いは辻々で踊られていたところの風流踊りの様子など、様々な京都の街中で行われていた出来事が描きこまれています。また洛中洛外図は、名所絵的な性格を持っていることその他、12カ月の行事を描いた月次絵的な性格も宿しています。

そして、この講演のタイトルである「日本美術にみる暮らしの喜び」、それが最もダイレクトに伝わってくるのは祭礼図に他ならないと思います。図録の表紙になっているサントリー美術館が所蔵している「日吉山王祇園祭礼図屏風」には様々な祇園祭の山鉾や山が描かれている他、祇園祭りに全く関係ない所に描かれている人々も、それぞれの楽しみ方をしていることが窺え、祭りの周辺の描写にも手を抜いていない。祭礼図の面白味は祭りに従事している人々、それを見る人々2つながら表情豊かに描かれているところじゃないでしょうか。それから風流飾りなどの作り物の面白さは、祭礼関係のビジュアル絵画の魅力にもなっています。

また「豊国祭礼図屏風」や「花下遊楽図屏風」などにも風流踊りの輪舞が描かれています。思い思いに趣向を凝らして飾り立て扮装・変装した人物が輪舞に興じていて、桃山時代のエネルギーを発揮しています。

さて当館を代表する作品の目玉のもう一つに南蛮屏風があります。そして今、陳列している「泰西王侯騎馬図屏風」と2つですね、当館の絵画における代表的な作例として位置付けられているものです。

南蛮貿易には2つの要素があって、聖なる面というキリスト教の布教があり、南蛮屏風でいえば、マントを羽織った宣教師や南蛮寺の存在がそれを物語ります。もう一方の貿易活動は当時のスペインやポルトガルの文物を日本にもたらしたことでした。

そうした中で、南蛮貿易とキリスト教布教の両方の観点から高台寺時絵的な技法、量産の利く蒔絵の技法を使ってですね、聖籠などの南蛮漆器といわれる一群のものがヨーロッパに輸出されました。

「泰西王侯騎馬図屏風」は日本の画家が日本の絵の具を使って描いたと思われるものですが、陰影表現・立体表現が破綻なく行われています。研究者の指摘では、1609年に改訂した世界地図の周縁の差図の王侯図などを下敷きにして、大画面に拡大してカラフルな着彩を施して描いたものといわれています。そしてイエズス会やキリスト教の布教の一環であるセミナリオという学校の中で、西洋人の教えを請いながら描かれたものであろうという位置付けがされています。

一方の「南蛮屏風」は、筆者の狩野山楽が屏風を描くに当たって下敷きとして自分が知っているところの知識に脚色を加えるなどして描いているほか、左右の隻において、少年、犬、などを好対照にして描き分けを試みていることが分かります。南蛮屏風と称される屏風の代表的な作例の1つとなっています。

（「サントリー美術館名品展 - 日本美術の精華 -」にちなんで、昨年10月2日に当館ホールで行われた講演内容を、当館の責任で要約したものです。）

# 平成18年度 友の会会員募集

3月1日(水)から受付開始!!  
郵便でのお申し込みは郵便振替で

平成18年度友の会会員は次の要領で募集いたします。  
現会員の方で継続をご希望される場合でも、改めてお申し込み下さい。お申し込みがない場合はそのまま退会となります。

募集定員 1,500名  
会費 2,000円  
受付期間 3月1日(水)より開始し、募集定員に達し次第締め切ります。  
3月2日(木)・3日(金)・27日(月)~31日(金)は展示替えによる休館日ですのでご注意ください。

### 入会手続き

次のA、Bいずれかの方法でお願いいたします。

**A** 当館へご来館になり、受付へお申し出下さい。  
会員証はその場で発行します。

当館中央ロビー奥の図書閲覧室で受付いたします。入会申込書は閲覧室内にも常備してありますが、現会員の方は今回同封の入会申込書に所定事項をご記入の上、会費(現金)とともにお出し下さい。

受付時間は、休館日を除く午前9時30分から午後4時30分までです。

**B** 郵便振替用紙をご利用下さい。会員証は3月末から美術館だよりと共に郵送します。

同封の郵便振替用紙に所定事項をご記入の上、最寄りの郵便局窓口へお出し下さい。

郵便振替口座 00700 - 7 - 46490

加入者名 石川県立美術館友の会

払込料金70円は申込者負担となります。

会員証は『美術館だより』と一緒に、3月末頃からお送りする予定です。

白色の図書閲覧室受付専用用紙は必要ありませんので、郵送しないで下さい。

振替用紙の受領証は、会費送付の証明となるものですから、お手許で大切に保管しておいて下さい。

郵便局備え付けの振替用紙をご使用の場合は、通信欄

に下記事項をご記入下さい。

年齢 性別 会員の区別(継続・新規・元) 職業

継続会員の方は現会員番号

その他

会員証の有効期間は平成18年4月1日~19年3月末日です。(改修工事に伴う年度途中での休館はありません)会員は記名者本人のみとします。(ご家族の方との連名受付はいたしません。)

一度納入された会費は、お返しいたしません。

会員証紛失による再発行は受け付けません。

### 会員の特典

当館コレクション展に何度でも無料で入場

受付での会員証の提示により、会員本人のみ、年度内であれば何度でも無料で入場できます。

当館企画展入場券

この観覧券で当館の企画展のうち、いずれか1回無料で入場できます。

当館企画展の開会式にご招待

入館料の割引

受付での会員証提示により、同伴者2名まで当館主催展覧会(当館コレクション展、企画展)観覧料が団体料金なみに割引されます。

石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢21世紀美術館の各館主催展覧会でも同様の扱い(ただし同伴者割引なし)となります。

当館主催諸行事への参加

現地見学やバスツアー、ギャラリートーク、ミュージアム・コンサート等の諸行事に参加できます。

『石川県立美術館だより』の郵送

当館の最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより』(毎月1日発行)が毎月郵送されます。会員を対象とした行事のお知らせも掲載されています。

## 今回同封した入会申込用紙です。(参考見本)

①. 当館図書閲覧室受付専用

石川県立美術館友の会 入会申込書 <small>図書閲覧室受付専用</small>			
No. <small>(この番号は振替の記入)</small>		継続会員・新規会員・元会員 <small>(いずれかをご記入)</small> 月 日	
〒 <input type="text"/>		現在の会員番号 (No. <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> )	
<b>見本</b>			
住所	氏名	年齢	才
	フリガナ	性別	男・女
職業	電話	-	
備考	-		

\*受付は3月1日からです。3月2日・3日は休館日ですのでご注意ください。  
\*\*この入会申込書は図書閲覧室受付専用ですので郵送しないで下さい。郵便でのお申し込みは郵便振替用紙をご使用下さい。

②. 郵便申込専用です。ご使用の場合には、必ず郵便局窓口へお出しください。

払込取扱票		郵便振替払込請求書兼受領証	
00	007007	46490	0000
石川県立美術館友の会		石川県立美術館友の会	
石川県立美術館友の会入会申込書 <small>郵便振替申込専用</small>		見本	
1. 継続会員 → 現在の会員番号 2. 年令 ( ) 才 3. 性別 男・女 4. 学生・会社員・公務員・団体職員・教員・自営・医療関係・美術関係・主婦・無職・その他 (該当するものうち、一つだけ○で囲む。)			
おとこ (郵便番号 - )		おなまえ	
ご依頼人		ご依頼人	
おなまえ		おなまえ	
(電話番号 - - )		様	
受付局日附印		受付局日附印	
料 金		料 金	
円		円	
特別取扱		特別取扱	

## 企画展示室

### 第13回北陸国画グループ展

2月10日(金)~14日(火)(第7~9展示室)

北陸国画グループ展は、国画会会員の柏健が中心となって呼びかけた北陸在住および、ゆかりのある国画会出品者で構成されています。国画会(国展)は、毎年春に本展を東京都美術館で開催し、本年で第80回を迎える伝統のある公募団体です。

今回のグループ展出品者は、絵画部では安達博文、大森啓、柏健、堤建二、開光市ら会員5名を含む25名、写真部では会員の富岡省三を筆頭に24名が参加し、力作を2~3点ずつ発表します。フリースペース展示では柿村将之、川原和美の作品をまとめて展示しますので、是非ともご高覧くださいませようお願い申し上げます。

入場無料

連絡先 河北郡津幡町七野107-1 本田正史  
☎076-288-1819

### 第29回金城大学短期大学部美術学科卒業制作展

2月18日(土)~21日(火)(第7~9展示室)

本学美術学科の卒業制作展は29回目となります。今年度はデザイン25点、マンガ・キャラクター21点、日本画16点、油画6点、染色・ファッション19点、陶芸・オブジェ3点の合計90点を出品予定です。また、各部門の研究生20名の作品が加わります。是非ともご高覧の上、厳しいご批評をいただければ幸いです。

入場無料

連絡先 白山市笠間町1200  
金城大学短期大学部 美術学科 堀 一浩  
☎076-276-4411

### 金沢大学教育学部美術教室卒業・修了制作展

2月25日(土)~28日(火)(第7展示室)

絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術科教育の各分野の学部、大学院生による平成17年度卒業・修了作品及び論文等パネルを展示します。これらは、教員のほか、多様な分野へ進出を目指す学生達が、自らの学生生活の総決算として地道に努力を重ね、かつ創造的に研究し制作して完成させたものです。展示点数は数十点、是非ご高覧下さい。そして忌憚のないご批評、ご助言をお願いします。

入場無料

連絡先 金沢市角間町  
金沢大学教育学部美術教室 松浦 昇  
☎076-264-5585

### 毎日現代書北陸代表作家展

2月25日(土)~3月1日(水)(第8・9展示室)

わが国の書展で最大規模と歴史を誇る毎日書道展に結集する、北陸三県在住の代表作家の作品を、一堂に集めたスケールの大きな書道展です。出品作家は日本の書壇を代表する毎日書道会理事をはじめ、三県の名誉会員、審査会員、会員のほか気鋭の選抜の方々です。作品は約150点にのぼり、漢字、かな、近代詩文書、大字書、篆刻、刻字、前衛書とあらゆる分野を網羅しており、多彩な現代書之美を感じとっていただけるはずです。多くの方々のご来場をお待ちしております。

入場無料

連絡先 金沢市広岡1-2-20 毎日新聞北陸総局  
☎076-263-8811

## 2月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月日	行事	内容	会場
2/4(土)	キッズ プログラム	黒の迷宮を鑑賞しよう (吉村尚子 学芸主任) 小学生対象の講座です。	コレクション展示室
2/5(日)	月例映画会	亜欧堂田善(28分) 茶の湯釜 角谷一圭のわざ(31分)	ホール
2/11(土)	ギャラリートーク	彫刻 石川の昭和30年代 (織田春樹 学芸主査) 展示室内で行われるため、コレクション展の入場料が必要です。	コレクション展示室
2/12(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物13 鑑真大海を渡る(30分) 正倉院宝物14 祈りの造形(30分)	ホール
2/18(土)	美術講座	近代の数寄者 松永耳庵を中心に (高嶋清栄 学芸専門員)	講義室
2/19(日)	月例映画会	現代彫刻 創る 本郷新の世界(31分) 飛鳥・白鳳の故地百済(23分)	ホール
2/25(土)	美術講座	彫刻 石川の昭和30年代 (宮 衛 学芸第二課長)	講義室
2/26(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物14 祈りの造形(30分) 正倉院宝物15 文様の遥かな道(30分)	ホール

2月の全館休館日は6日(月)・7日(火)です。

年配の男が酒に酔って、千鳥足で歩いているところを捉えた立像です。作者の彫刻は物語性を色濃く反映したものが多く、それが強烈な個性になっています。醜怪ともいえる姿がいつしか心あたかく高貴にすら思えてくるこの作品は、見るものにいのちとは何か、人生とは何かを問いかけているようです。作者のその真摯な姿が、人の心を捉えてやまないようです。人間の弱くて悲惨な真実を真っ直ぐ突き付け、作者の心情はまことにシリアスといえるのかもしれない。

作者は人間の生活・生きるということに着目した彫刻家といえるのではないのでしょうか。なにか指向するものが、画家の故鴨居玲の諸作品に相通ずるようなものを感じる人も確かにいるようです。この作品は第12回日彫展で西望賞を受賞しています。人間の孤独・苦悶、生きる事の難しさが作品から伝わってきます。この作品は、作者の代表作といつてよいでしょう。

作者の坂坦道は大正9年鳳珠郡能登町恋路に生まれました。本名を晴嵐といい、父は洋画家の坂寛二で父の没後、北海道に転居し、昭和19年東京美術学校彫刻科を卒業しました。18年第6回新文展に初入選、戦後は日展に出品し39年特選、57年日彫展で西望賞を受賞しました。同年札幌市民芸術賞を受賞し、39年より北海道女子短期大学で講師を務め後進の指導にも当たりました。平成10年に他界されました。

第4展示室で展示中



## よ 酔っぱらい

さか 坂 たん 坦 とう 道 大正9年~平成10年(1920~1998)

昭和57年(1982)

第12回日彫展西望賞

高172.0 幅50.5 奥行48.0(cm)

## ミュージアムショップ通信

企画展「黒の迷宮 凝視の刻 木下晋・小林敬生・日和崎尊夫」という、正月から華やかな色彩のない黒一色のモノトーンの世界はいかがだったでしょうか。鑑賞された方からは、「鉛筆画の巨大な肖像画に衝撃を受けた。」また、「微細な木口木版の深遠なる幻想の世界に感動した。」など多くの方々から好評をいただき、企画した側としては、喜んでおります。来年度も皆様の期待に応えられるような展覧会を...と考えております。

さて、今月は久しぶりに新商品、宮本三郎ハンカチをご紹介します。緑、紺、紫の3色を販売しており、定価は1,000円です。宮本三郎らしい大胆華麗な筆致で描かれた花模様のハンカチはいかがでしょうか。お待ちしております。



宮本三郎ハンカチ  
(定価1,000円)

## 次回の展覧会

- 天神画像と文房具 (前田育徳会)
- 名刀と槍 (第2展示室)
- 画家と絵皿 (第3展示室)
- 万国博覧会の時代 - 明治の工芸 - (第5展示室)

3月4日(土)~3月26日(日)

休館日：2月6日(月)・7日(火)

石川県立美術館だより 第268号

2006年2月1日発行

〒920 0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>